

先輩インターンの活躍について

派遣年度	2014	インターン番号	KB1056	タイプ	公募型
派遣国	バングラデシュ人民共和国			派遣都市	ダッカ
受入機関	Healthcare Pharmaceuticals Limited (HPL)				
受入機関概要 (事業内容等)	元スイスの大手医薬品メーカーRocheグループで、現在は完全独立している企業。 バングラデシュ国内の製薬会社の中で有数の成長率を誇る。海外展開にも積極的。				
派遣期間	2014年9月1日 ~ 2014年11月27日				
現在の所属先	東北大学大学院		当時の所属先	同左	
現在の所属部署	医工学研究科		所在地	宮城県	
区分	学生		性別	男性	

1. インターンシップに参加されたきっかけや動機についてお聞かせください。

大学4年間と、大学院の数カ月で学び身に付けたことを武器に、国外企業の中でどのように働くことができるのかという、漠然とした不安を実体験を通して実感することのできる機会だと考えたからです。

研究内容が医療デバイスであることから、医師と関わる機会をもてる企業の中から、特にアジア最貧国といわれるバングラデシュの医薬品メーカーであるHPLを派遣先として志望しました。

2. インターンシップではどのようなことをされましたか。

3カ月の派遣期間のうち、前半の1カ月半は本社各部署において事業内容に関する研修、及びダッカ市内5つの病院を見学し医師と対話の機会を持ちました。後半は生産工場での品質管理・品質保証のシステムや取り組みに関して研修を受けたのち、新製品開発部署において研究開発を行う現地研究員から指導を受けました。

3. インターンシップに参加して達成できたこと、参加して良かったことは何でしょうか。

アジア最貧国と言われるものの、バングラデシュ国内のエリートとして誇りを持って仕事に取り組み、真面目に一層の成果や成長を求めるエンジニアや研究者達からレクチャーを受けるだけでなく、時には話し合いの場を持つことで、海外のトップ層と働くという未知の不安を取り払うことができました。また、アカデミックの学会などでは会うことがないような、新興国出身の優秀な研究者のレベルの高さに非常に刺激を受けました。

特にダッカ市内の現地病院の各病棟を毎日見学して回る中で、予想を超えた医療機器の充実度に驚くと同時に、医療インフラが不十分なことによる治療ができない状況に無力感を覚えたことは忘れることができません。今後のキャリアを考え直すことが容易な時期に、このような体験をすることができたことは、一生の財産だと確信しています。

インターンシップ風景



ダッカ市内の病院の熱症病棟を見学した際



生産工場にて品質管理に関して学んだ際

4. インターンシップの経験は、その後どう活きましたか。具体的なエピソードを交えて教えてください。

インターンシップを通じて、国内外の非常に優秀な方々と関係を持つことができ、モチベーションを高く持って成長する一つの大きな機会になりました。大学の研究室で自身の研究に没頭するだけでなく、自分を感化してくれた友人たちが今をどう生きているのかを知ることは継続してモチベーションを保つ一つの要因となっています。

インターンシップに参加して得た最大の成果は、実際に仕事をする中で日本人として、研究者としての自分を全く別の視点を持った海外の上司や研究者に評価してもらったことだと考えています。彼らと時にぶつかり合うことを通して、より確信を持てるようになった点や、改めた考え方は少なくありません。したがって、現在は就職活動や海外の研究者とお話をする中で、実体験に基づいた見解を武器に自信と説得力を持って話し合いの場に参加することができています。

現在は、日系の医療機器メーカーから内定を頂いており、来年度からは研究開発部門への配属が決定しています。インターンシップ中に新興国でのビジネスを強く意識していたため、ビジネスの観点にも長けた研究者として評価していただいたのだと理解しています。

5. 最後に、インターンシップへの参加を検討している人たちへメッセージをお願いします。

私は、その時々所属する似通った価値観を持った人々からの評価だけではなく、全く異なる価値観を持った人に評価される必要があると考えています。そのために国内外で出来ることは身の回りに沢山あると思います。中でも本事業は事前の準備期間を含め、具体的な目的を持って参加することができ、インターンシップ中だけではなくその前後期間で非常に意識の高い人々と関係を持つことができます。加えて現地で肉体的・精神的強さも身に付けられると思いますよ。

現在の活躍の様子



Falling Walls Labの予選会に参加した際